



失敗こそが成功の礎

晴れの卒業式を挙げるに当たり、ご来賓並びに保証人の皆さまには、多数ご参加いただきまして、ありがとうございます。卒業生の皆さん、ご卒業、おめでとうございます。また、大学院を修了された皆さん、専攻科を修了された皆さん、おめでとうございます。教職員と在校生を代表して、心からお祝い申し上げます。

保証人におかれましては、経済不況の最中の在学中であり、ご苦労が多かったものと拝察しますが、ご卒業を迎えられて安堵の胸を降ろされていくことでしょう。

皆さんは、在学中、学習に、サークル活動、ボランティア活動などに精一杯励まれました。その結果、多くの人が国家資格や専門分野の資格を取得されました。中でも、教員免許は、77名の人が120種類もの免許状を取得されました。サークル活動においても、中国地区や広島県の学生選手権大会で男子バレー部や軟式野球部、その他、多くの部が、度々優勝され、全国大会の出場権も得られました。このような目覚ましい成果の背景には、並々ならぬ努力の結集がある訳であり、身に付けられた体力と精神力は、将来、必ず、役に立つものと確信いたします。

さて皆さんが、就職される企業は、経営が回復傾向にあるとはいっても、依然として、予断を許さない厳しい環境の最中にあります。ですから、入社したらその日から一人前の戦力として期待され、難しい仕事に課せられるでしょう。その際は、臆病にならず、挑戦するつもりで、前向きに踏み出す勇氣を持ててください。病院などのように、一度間違えば、生命に関わる場合は、上司の指示に従い、正確に処理することが必要でしょう。このような場合でも、判断を求められ、臆することなく、自分の考えを堂々と述べて下さい。大切なのは、上手く、応えられなかったとか、ピンと外れの応答だったりして、失敗したからと言って、落ち込んだり、自信をなくさないことです。度々、思うように行かなかったからといって、臆病になって、行動を起こす意欲をなくさないことです。何度、失敗しても惨めになる必要は決してありません。

問題なのは、失敗するのが怖くなり、いつの間にか発言する勇氣をなくし、上司の指示だけを待つて、安易に従つて指示待ち行動しを身に付けやすくなることです。この態度だけは、皆さんの成長を阻害することになります。会社もそのような人間は、求めておりません。上司から思いがけなく予想しなかった応答が返ってきたら、どこがいけなかったかを良く吟味し、訂正し、再度、挑戦して下さい。それでも、上手くいかなかったら、自分を叱咤激励して、再度、挑戦することです。失敗に掛けない気概が大切です。成功するが、失敗するが、五分五分と考えた方がいいのです。半分は失敗しても動揺しない程度の余裕を持ちましょう。それ以上に意味があるのは、失敗して苦しむ過程が、困難に打ち勝つ精神力を大きく育ててくれます。

もう一つ、お願いしたいことは、会社は、とにかく、皆さんが選んだ会社であり、会社も適任者であるとして採用したのではありません。お互いの信頼の上に成り立つた関係です。ですから、一旦入社したら、その会社に骨を埋める位の強い決意を持って、与えられた業務に専念すべきです。会社も皆さんが一人となつて仕事に専念して下さい。心待ちしています。

在学中に希望していた職種の業務内容や待遇と入社後とが完全に一致している場合は、そう、多くないのではないのでしょうか。大多数の人は、食いや住い、不満があつても、我慢して働き続け、その内に次第に定着していくのではないのでしょうか。隣の会社の方が、給料が高く、条件が良いといふ噂を聞いても、よく調べてみることも短所はあります。入社したら、その会社に迷わず、誠心誠意尽くすことが、その道のプロとして成長するための鍵となります。

諸君は、現在、青春の真っ只中にあります。精神力も体力も生涯の中で、もっとも、活性化しており、柔軟性があり、強健なものといえます。また、これからの十数年間に、幸福な将来の生活を保障する基盤が出来上がります。

また、当分は、不景気状態は続くでしょう。身体あつての仕事ですから、健康第一に、その上で、思う存分仕事をする気持ちで、どうかこの窮地を乗り切ってください。終わりに当たり、皆さんが福山平成大学卒業生であることに誇りをもって、多難な時代に自分の魅力を十二分に発揮されて、粘り強く活躍されますようご健闘を祈念してやみません。

平成25年3月22日

福山平成大学

学長 田口 則良



自信と誇りを持って新しい社会への挑戦を

本日の佳き日に福山平成大学平成24年度卒業生のための式典が盛大に挙行されることになり、心よりお祝い申し上げます。おめでとうございます。

卒業生の皆さん、本当によく頑張りましたね。本日ご出席の保証人の皆さんも心から卒業を祝福していただいていると思います。また、在学中一人ひとりの学生を大切に、心を注いで指導下さった先生方そして事務職員の皆さんは、改めて厚く御礼申し上げます。さて、皆様の在学中には、東日本大震災があたり、IPS細胞の作成に世界で初めて成功し、ノーベル賞をいただいたり、政権が変わつたりといった大きな出来事がありました。

東日本大震災については、多くの学生が東北各地の被災地を訪ね、ボランティア活動に積極的に参加され、その献身的活動について、地元の皆様は、多くの方から高い評価をいただき、心から喜ばれました。皆さんはこのボランティア活動を通して、人の心や絆の大切さの字は、一段と人間が大きくなったものと、喜んでおります。

一方、政治、経済の面では、リーマンショックなど失われた20年といわれた時期であり、政治では首相が一年毎に交代したのをはじめ、経済社会問題では、デフレの進行、原発、放射能汚染やエネルギー問題、震災の復興、社会保障と税の一体改革、尖閣、竹島、北方四島などの外交、安全保障問題、定年後の高齢者雇用の法制化や若年労働者の雇用促進など多くの問題があり、その改善、改革が強く求められた時期でもありました。幸い、内閣が変わり、アベノミクスにより、円安、株高も着実に進み、企業業績も上昇するとともに、さらに金融緩和や財政出動、経済成長戦略の推進など、日本の基本政策が進められることになり、日本の政治、経済についての展望も明るくなりつつあります。

また、教育問題では、秋入学といった新しい問題が提起されました。ご承知のように海外では70%の国が秋入学を採用しております。これからは、国際化グローバル人材の育成という立場から入

学時期を世界に合わせるといった必要も大いにあると思います。しかし、日本の現状ではいきなり春入学を秋入学にするといつても問題は大いにあります。具体的にいいますと、入学した4月から9月までのギャップチームをどうするか、この期間はボランティア活動をしたり、海外への短期留学をしたらどうかなどといいますが、それではその経費はどうするかといった大きな問題があります。また、3月と違う秋卒業の場合、学生の就職、国家試験、資格試験をどうするか、企業の会計年度等との関係をどうするかなど問題がいろいろあります。

このことについては、国や社会、企業などの支援体制を整わなければ実現できないのではないかと多くの人が懸念を表明されております。当法人としては、世界の70%近くが秋入学であり、国際化、グローバル人材の育成という大きな観点から現在その研究、検討を積極的に進めているところとなっております。

また、私学の教育では経営問題が大きな柱上にあるが、東日本大震災に伴う放射能汚染や地震の多発などを憂い、外国人留学生が減少したことなどから私立大学の経営は大変厳しき状況にあります。日本私立学校振興・共済事業団の調査によりますと、いま私立大学は605校ありますが、そのうち学生募集のできなかった大学、通信制だけの大学、大学院だけの大学の合計28校を除いた577校のうち、45.6%の264校が定員の未充足(80%以下)となっております。

学校法人福山大学は、二つの大学を持つておりますが、その平均では80%を越えておりますが、大学別では、福山大学が平均を下まわり、福山平成大学は100%近くとなっております。そこで平成24年度から、両大学の入試対策室と入試対策委員会の活動を強化するとともに、広報活動にも積極的に力を入れました結果、平成24年度は両大学とも志願者が増えるとともに、平成25年度は、さらに志願者が増え、充足率100%達成に向つております。

また、就職については、就職委員会を中心に両大学の教職員、学生、保証人卒業生、関係経済団体、商工会議所、ハローワークなどの協力により、全国平均を大きく上回る95.6%に達しております。面倒見のよい大学として高い評価をいただいております。

ご承知のように日本の学生は、知識力や学力は世界的にみて、非常に高い

し、品格もあります。また、企業への忠誠心も他国とは比較にならないほど強い。ただ今までの教育では「コミュニケーション能力」とか「表現力」「プレゼンテーション能力」「創造的思考力」「クリエーティブシンキング」「想像力」「イメージ」などに欠けていたところから、当大学としてはキャリア教育やキャリア形成支援のための教育に力を入れ就職希望者の100%が確実に就職できるよう指導を強化したところ、その成果が今年は反映されたのだと考えております。これからは就職希望者は確実に100%就職できるようにするため、就職対策室や委員会を、さらに充実強化し、活発に活動を進めていくことにしています。

いま、東京では東京駅から地下鉄で10分前後の所に西葛西という所があります。そこにはインド人が3万人ちかく住んでおります。そのインド人はほとんどがIT関係の技術者で高い技術を持つていて、ことごとく日本のIT企業がこぞ採用し、事業面で活躍しているという状況です。そのインド人が日本人に対して言っている言葉があります。1つは、とにかく自信を持って仕事に当たってほしい。2つはあきらめないこと。3つは遠慮しないこと。日本人は高い知識と学力を持つていて、その点が欠け、遠慮する人が多いと言っています。卒業生の皆さんは、とにかく仕事に自信を持つこと、何事も任務を達成するまで頑張り絶対に諦めないこと、そして遠慮せず自分の思っていることや考えていることをどんどん率直に発言する人間となつて、これから勤めたい会社、学校団体などに貢献してほしいと思います。皆さんはそれだけの力を充分持つていますから、自信を持ってやってほしいと思います。

「失われた20年」から脱却し、大きく飛躍しようとしている社会に皆さんは足を踏み入れるわけですから、その点では、昨年までと大きく変わり、希望を持ち、展望が開けようとしている年に卒業され、就職にあるいは進学に進むわけですから、大変恵まれているものと考えられます。大学で培った高い学力と強い体力、苦勞して取得した資格などを有効に活用し、地域や企業等で働く中核の人材として、その力を充分発揮されますよう心よりお願い申し上げます。祝いの言葉といたします。

平成25年3月22日

学校法人 福山大学

理事長 清水 厚實



大学生活を振り返って

三年次から始まった就職活動では週に何回も大学の就職課を利用して、先生方には優しく、時に厳しく指導して頂きました。就職活動中はたくさん悩み、苦勞もしたけれど、改めて家族や先生方の存在に気付くことができた経験でもありました。

共に同じ大学で学び励まし合った友達や、優しく丁寧な指導をしてくださった先生方、いつもあたたかく見守り応援してくれた家族など、たくさんの人たちに支えて頂いたことに心から感謝しています。四年間、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

四年間のメッセージ

入学当初、学科の皆と仲良く四年間やっていたのかと不安に思っていたのがつい先日のように感じられます。そんな不安を抱えながらも、少数人数での和気あいあいとした授業や、現場での実習、資格取得に向けたグループ学習などを通して仲を深めていくことが出来たと感じています。

実習は、事前の準備から実習後の報告会が終わるまでがとても忙しく、時には挫折しそうになることも、もうやめてしまおうかと思ったりすることもありますが、皆で励ましあい支えあい、先生方に厳しくも温かい指導を頂きながら、なんとか乗り越えることが出来ました。苦しかった実習も、今ではとても貴重な経験になったと感じています。一緒に実習を乗り越えてきた皆、諸先生方にはとても感謝しています。

私個人としては、この四年間で学生生活や実習、アルバイトなどを通して、コミュニケーション能力が微々たるものではありますが高まったと感じています。学校で友達や先生方と様々なことを語り合い、実習先で利用者の皆様と向き合ってお話を聴かせて頂き、アルバイト先で様々な年代の方々とお話をする。そのような経験を、成長できたのではないかと思います。

四月から、私も、同級生も社会人の仲間入りです。四年間一緒に楽しんできたことや苦しんできた経験を、経験してきた皆と離れるのは寂しいです。また、私たちが社会に出て通用するの、という不安もあります。しかし、この福山平成大学で学んできたことを活かしながら、精一杯頑張っていきたいと思っています。

最後に改めて、福祉学科の皆さん、先生方、四年間本当にありがとうございました。

入学当初、学科の皆と仲良く四年間やっていたのかと不安に思っていたのがつい先日のように感じられます。そんな不安を抱えながらも、少数人数での和気あいあいとした授業や、現場での実習、資格取得に向けたグループ学習などを通して仲を深めていくことが出来たと感じています。

実習は、事前の準備から実習後の報告会が終わるまでがとても忙しく、時には挫折しそうになることも、もうやめてしまおうかと思ったりすることもありますが、皆で励ましあい支えあい、先生方に厳しくも温かい指導を頂きながら、なんとか乗り越えることが出来ました。苦しかった実習も、今ではとても貴重な経験になったと感じています。一緒に実習を乗り越えてきた皆、諸先生方にはとても感謝しています。

私個人としては、この四年間で学生生活や実習、アルバイトなどを通して、コミュニケーション能力が微々たるものではありますが高まったと感じています。学校で友達や先生方と様々なことを語り合い、実習先で利用者の皆様と向き合ってお話を聴かせて頂き、アルバイト先で様々な年代の方々とお話をする。そのような経験を、成長できたのではないかと思います。

四月から、私も、同級生も社会人の仲間入りです。四年間一緒に楽しんできたことや苦しんできた経験を、経験してきた皆と離れるのは寂しいです。また、私たちが社会に出て通用するの、という不安もあります。しかし、この福山平成大学で学んできたことを活かしながら、精一杯頑張っていきたいと思っています。

最後に改めて、福祉学科の皆さん、先生方、四年間本当にありがとうございました。

入学当初、学科の皆と仲良く四年間やっていたのかと不安に思っていたのがつい先日のように感じられます。そんな不安を抱えながらも、少数人数での和気あいあいとした授業や、現場での実習、資格取得に向けたグループ学習などを通して仲を深めていくことが出来たと感じています。

実習は、事前の準備から実習後の報告会が終わるまでがとても忙しく、時には挫折しそうになることも、もうやめてしまおうかと思ったりすることもありますが、皆で励ましあい支えあい、先生方に厳しくも温かい指導を頂きながら、なんとか乗り越えることが出来ました。苦しかった実習も、今ではとても貴重な経験になったと感じています。一緒に実習を乗り越えてきた皆、諸先生方にはとても感謝しています。

私個人としては、この四年間で学生生活や実習、アルバイトなどを通して、コミュニケーション能力が微々たるものではありますが高まったと感じています。学校で友達や先生方と様々なことを語り合い、実習先で利用者の皆様と向き合ってお話を聴かせて頂き、アルバイト先で様々な年代の方々とお話をする。そのような経験を、成長できたのではないかと思います。

四月から、私も、同級生も社会人の仲間入りです。四年間一緒に楽しんできたことや苦しんできた経験を、経験してきた皆と離れるのは寂しいです。また、私たちが社会に出て通用するの、という不安もあります。しかし、この福山平成大学で学んできたことを活かしながら、精一杯頑張っていきたいと思っています。

最後に改めて、福祉学科の皆さん、先生方、四年間本当にありがとうございました。

入学当初、学科の皆と仲良く四年間やっていたのかと不安に思っていたのがつい先日のように感じられます。そんな不安を抱えながらも、少数人数での和気あいあいとした授業や、現場での実習、資格取得に向けたグループ学習などを通して仲を深めていくことが出来たと感じています。

実習は、事前の準備から実習後の報告会が終わるまでがとても忙しく、時には挫折しそうになることも、もうやめてしまおうかと思ったりすることもありますが、皆で励ましあい支えあい、先生方に厳しくも温かい指導を頂きながら、なんとか乗り越えることが出来ました。苦しかった実習も、今ではとても貴重な経験になったと感じています。一緒に実習を乗り越えてきた皆、諸先生方にはとても感謝しています。

私個人としては、この四年間で学生生活や実習、アルバイトなどを通して、コミュニケーション能力が微々たるものではありますが高まったと感じています。学校で友達や先生方と様々なことを語り合い、実習先で利用者の皆様と向き合ってお話を聴かせて頂き、アルバイト先で様々な年代の方々とお話をする。そのような経験を、成長できたのではないかと思います。

四月から、私も、同級生も社会人の仲間入りです。四年間一緒に楽しんできたことや苦しんできた経験を、経験してきた皆と離れるのは寂しいです。また、私たちが社会に出て通用するの、という不安もあります。しかし、この福山平成大学で学んできたことを活かしながら、精一杯頑張っていきたいと思っています。

最後に改めて、福祉学科の皆さん、先生方、四年間本当にありがとうございました。

入学当初、学科の皆と仲良く四年間やっていたのかと不安に思っていたのがつい先日のように感じられます。そんな不安を抱えながらも、少数人数での和気あいあいとした授業や、現場での実習、資格取得に向けたグループ学習などを通して仲を深めていくことが出来たと感じています。

実習は、事前の準備から実習後の報告会が終わるまでがとても忙しく、時には挫折しそうになることも、もうやめてしまおうかと思ったりすることもありますが、皆で励ましあい支えあい、先生方に厳しくも温かい指導を頂きながら、なんとか乗り越えることが出来ました。苦しかった実習も、今ではとても貴重な経験になったと感じています。一緒に実習を乗り越えてきた皆、諸先生方にはとても感謝しています。

私個人としては、この四年間で学生生活や実習、アルバイトなどを通して、コミュニケーション能力が微々たるものではありますが高まったと感じています。学校で友達や先生方と様々なことを語り合い、実習先で利用者の皆様と向き合ってお話を聴かせて頂き、アルバイト先で様々な年代の方々とお話をする。そのような経験を、成長できたのではないかと思います。

四月から、私も、同級生も社会人の仲間入りです。四年間一緒に楽しんできたことや苦しんできた経験を、経験してきた皆と離れるのは寂しいです。また、私たちが社会に出て通用するの、という不安もあります。しかし、この福山平成大学で学んできたことを活かしながら、精一杯頑張っていきたいと思っています。

最後に改めて、福祉学科の皆さん、先生方、四年間本当にありがとうございました。

入学当初、学科の皆と仲良く四年間やっていたのかと不安に思っていたのがつい先日のように感じられます。そんな不安を抱えながらも、少数人数での和気あいあいとした授業や、現場での実習、資格取得に向けたグループ学習などを通して仲を深めていくことが出来たと感じています。

実習は、事前の準備から実習後の報告会が終わるまでがとても忙しく、時には挫折しそうになることも、もうやめてしまおうかと思ったりすることもありますが、皆で励ましあい支えあい、先生方に厳しくも温かい指導を頂きながら、なんとか乗り越えることが出来ました。苦しかった実習も、今ではとても貴重な経験になったと感じています。一緒に実習を乗り越えてきた皆、諸先生方にはとても感謝しています。

私個人としては、この四年間で学生生活や実習、アルバイトなどを通して、コミュニケーション能力が微々たるものではありますが高まったと感じています。学校で友達や先生方と様々なことを語り合い、実習先で利用者の皆様と向き合ってお話を聴かせて頂き、アルバイト先で様々な年代の方々とお話をする。そのような経験を、成長できたのではないかと思います。

四月から、私も、同級生も社会人の仲間入りです。四年間一緒に楽しんできたことや苦しんできた経験を、経験してきた皆と離れるのは寂しいです。また、私たちが社会に出て通用するの、という不安もあります。しかし、この福山平成大学で学んできたことを活かしながら、精一杯頑張っていきたいと思っています。

最後に改めて、福祉学科の皆さん、先生方、四年間本当にありがとうございました。

入学当初、学科の皆と仲良く四年間やっていたのかと不安に思っていたのがつい先日のように感じられます。そんな不安を抱えながらも、少数人数での和気あいあいとした授業や、現場での実習、資格取得に向けたグループ学習などを通して仲を深めていくことが出来たと感じています。

実習は、事前の準備から実習後の報告会が終わるまでがとても忙しく、時には挫折しそうになることも、もうやめてしまおうかと思ったりすることもありますが、皆で励ましあい支えあい、先生方に厳しくも温かい指導を頂きながら、なんとか乗り越えることが出来ました。苦しかった実習も、今ではとても貴重な経験になったと感じています。一緒に実習を乗り越えてきた皆、諸先生方にはとても感謝しています。

私個人としては、この四年間で学生生活や実習、アルバイトなどを通して、コミュニケーション能力が微々たるものではありますが高まったと感じています。学校で友達や先生方と様々なことを語り合い、実習先で利用者の皆様と向き合ってお話を聴かせて頂き、アルバイト先で様々な年代の方々とお話をする。そのような経験を、成長できたのではないかと思います。

四月から、私も、同級生も社会人の仲間入りです。四年間一緒に楽しんできたことや苦しんできた経験を、経験してきた皆と離れるのは寂しいです。また、私たちが社会に出て通用するの、という不安もあります。しかし、この福山平成大学で学んできたことを活かしながら、精一杯頑張っていきたいと思っています。

最後に改めて、福祉学科の皆さん、先生方、四年間本当にありがとうございました。

入学当初、学科の皆と仲良く四年間やっていたのかと不安に思っていたのがつい先日のように感じられます。そんな不安を抱えながらも、少数人数での和気あいあいとした授業や、現場での実習、資格取得に向けたグループ学習などを通して仲を深めていくことが出来たと感じています。

実習は、事前の準備から実習後の報告会が終わるまでがとても忙しく、時には挫折しそうになることも、もうやめてしまおうかと思ったりすることもありますが、皆で励ましあい支えあい、先生方に厳しくも温かい指導を頂きながら、なんとか乗り越えることが出来ました。苦しかった実習も、今ではとても貴重な経験になったと感じています。一緒に実習を乗り越えてきた皆、諸先生方にはとても感謝しています。

私個人としては、この四年間で学生生活や実習、アルバイトなどを通して、コミュニケーション能力が微々たるものではありますが高まったと感じています。学校で友達や先生方と様々なことを語り合い、実習先で利用者の皆様と向き合ってお話を聴かせて頂き、アルバイト先で様々な年代の方々とお話をする。そのような経験を、成長できたのではないかと思います。

四月から、私も、同級生も社会人の仲間入りです。四年間一緒に楽しんできたことや苦しんできた経験を、経験してきた皆と離れるのは寂しいです。また、私たちが社会に出て通用するの、という不安もあります。しかし、この福山平成大学で学んできたことを活かしながら、精一杯頑張っていきたいと思っています。

最後に改めて、福祉学科の皆さん、先生方、四年間本当にありがとうございました。



経営学科
古本 彩



福祉学科
石ヶ休 祐美



こども学科
吉坂 幸汰



健康スポーツ科学科
小野村 航



看護学科
胡子 沙也加

門出を祝して 卒業生に送る言葉

卒業おめでとうございませう。卒業生のみなさんが入学してから四年間、大きく成長されたことと思います。しかし、一昨年の災害のような大きな出来事があり、社会の情勢も随分変わりました。非日常的なことのように思えますが、よく観察してみれば、それによって私たちの生活も少なからず影響を受けています。さらに、社会に出て仕事をすれば、様々な出来事にやはり影響を受けまます。このように、社会に出ると様々な変化への対応を迫られます。

日本の宇宙開発に目を向けてみると、みなさんの入学の年に約一年半の任務を終えた月周回衛星、かぐや、2010年に帰還した小惑星探査機はやぶさ2と、私たちの子供の頃の夢の一部を実現してくれ、大きな感動を与えてくれた輝かしい成果があります。これは、十年単位の時間をかけ、多くの人が携わったプロジェクトの成果です。日本の高い技術を示すことのみならず、一つ一つ問題を解決して、成果を積み上げて大きな成果をあげるよい例です。

今まさに、みなさんは社会人としての一歩を踏み出そうとしています。それは、家族や大学から守られた学生という立場から、自ら道を切り開いて社会の一員として生きていくための第一歩です。また、これは人生の中で大きな節目のときでもあります。就職するということは、社会の一員となることで、いままで置かれていた環境が大きく変わり、それに対応する必要があると思います。これは、自分自身を見つめ直すよい機会です。学生時代に築いてきたことを生かし、自分を再認識して、自信をもって新しい一歩を踏み出していただきたいと思っています。

みなさんの歩く道は、平坦な道だけではないと思います。険しい坂道があり、大きな壁が立ちはだかるかもしれません。大学で学んだことを基礎にして、常に新しい知識を吸収し、的確な判断力をもって、そのときの課題に対応できるように精進していただきたいと思っています。そして、目標に向かって一歩一歩、ときには半歩しか進めなくても自分自身のやり方で自信をもって前進してください。

みなさんの新しい人生の門出に、幸多いことをお祈りいたします。

福祉健康学部の卒業生諸君、御卒業おめでとうございませう。保証人の皆様も安堵されたことと心から御慶びを申し上げます。

諸君は大学生活の4年間、社会人になるために勉学に励み、クラブ活動にまたボランティア活動に精進してこれだけのものをつかんだことでしょう。その答えが就職にも活かされたことを確信します。このから旅立つ社会とは厳しいものであり、大学生のときのような甘えは決して許されないことを肝に銘じてください。

私たち福祉健康学部の学生は、社会福祉学科やこども学科では、子どもや、高齢者をはじめ、社会の弱者といわれる人々の幸せを追求する学問を学び、健康スポーツ科学科はスポーツや教育学を通して国民の健康維持増進に寄与する学問を学びました。また、平成24年度は大学院スポーツ健康科学研究科の第3期生3名に、修士の学位が授与されました。大学院生活は指導教員との二人三脚で研究に携わった2年間であったと思います。その成果によって教員採用のみが開かれた院生もあります。本当におめでとう御座います。今後は精進してこれら高度専門職教育・研究の成果を社会に役立つつよ頑張ることを心から期待しています。

皆さんが在学の最中に我が国は東日本震災という未曾有の大災害に遭遇し、現在も復興を目指して多大な困難に直面しています。昨年12月には政権の交代があり、政府は経済面ではデフレ脱却と持続的経済成長に努力しており、期待は持たれています。しかし現状は相変わらずの不況の最中であることには間違いありません。また、近隣諸国との軋みは依然として存在し、日本の状況は樂觀を許さないものであると言えます。しかし諸君のこれから長い人生において日本経済は必ず浮かび上がり、また沈むこともあるでしょう。今こそ人間の絆が大切にされる時代はないと確信しております。このような時代であるからこそ、これから実社会に旅立たれる諸君に望まれることは、希望と忍耐をもって自分与えられた仕事に邁進して頂きたいということだと思います。どうか安易に仕事を辞めないうでください。再び仕事を求めるのは至難の技であることを忘れないでください。最後に皆さんの幸運を祈っています。

平成21年4月に看護学部3期生として入学し、本日晴れの門出を迎えた学生の皆さん、ご卒業本当におめでとうございませう。同時に、これまで学生を支え続けてくださった保証人の皆様、感謝の気持ちで一杯でございます。さて、今日の日を待ち望んでいたことでしょうか。

福山市に初の4年制大学の看護学部が開設されたのに伴い、地域のご協力のもと4年間の看護学教育を終えられました。短かったようで長かった4年間でしたが、これからは社会の厳しさの中で自分自身を変えていき、プロフェッショナルとして全力投球で頑張りたい、皆様が大きく成長したと感じたのは、学外臨床実習後でした。幾多の試練で、凛とした顔となり、毅然とした態度で見事にプロとしての方向に成長したと感じました。私達教員は4年間、学生の皆様と苦楽を共にしてきましたが、大きく成長した姿を見て、喜びも一入であります。希望する就職先も決まり、看護学士号を取得した看護専門職者として、厳しい現状を認識し、こつこつと努力を積み重ねて将来は看護界を率いるリーダーになってほしいと考えています。それには、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力が必要です。失敗しても粘り強く取り組み、疑問を持ち考え抜くこと、多様な人々と共に目標に向かって協力する力をつけるよう、努力して下さることを願っています。

福山平成大学看護学部で学んだ学生の皆様は、一生の仲間であり、宝です。困った時は相談し、お互いに助け合ってください。看護職は組織にとつて社会的財産であり、貴重な存在であると言われるように何事にもあきらめないで頑張ってください。

卒業生の皆様の前途は大部分の方が看護師として臨床に就職します。教員になる方もいるでしょうし、助産師、保健師として活躍される方もいることでしょう。国民の健康を護る信頼される看護専門職者として、堂々と胸を張って進んでください。

更に、大学院看護学研究科並びに助産学専攻科の修了生、ご卒業おめでとうございませう。看護専門職者のリーダーとして力強くご活躍されんことをお祈りいたします。

卒業おめでとうございませう。卒業生のみなさんが入学してから四年間、大きく成長されたことと思います。しかし、一昨年の災害のような大きな出来事があり、社会の情勢も随分変わりました。非日常的なことのように思えますが、よく観察してみれば、それによって私たちの生活も少なからず影響を受けています。さらに、社会に出て仕事をすれば、様々な出来事にやはり影響を受けまます。このように、社会に出ると様々な変化への対応を迫られます。

日本の宇宙開発に目を向けてみると、みなさんの入学の年に約一年半の任務を終えた月周回衛星、かぐや、2010年に帰還した小惑星探査機はやぶさ2と、私たちの子供の頃の夢の一部を実現してくれ、大きな感動を与えてくれた輝かしい成果があります。これは、十年単位の時間をかけ、多くの人が携わったプロジェクトの成果です。日本の高い技術を示すことのみならず、一つ一つ問題を解決して、成果を積み上げて大きな成果をあげるよい例です。

今まさに、みなさんは社会人としての一歩を踏み出そうとしています。それは、家族や大学から守られた学生という立場から、自ら道を切り開いて社会の一員として生きていくための第一歩です。また、これは人生の中で大きな節目のときでもあります。就職するということは、社会の一員となることで、いままで置かれていた環境が大きく変わり、それに対応する必要があると思います。これは、自分自身を見つめ直すよい機会です。学生時代に築いてきたことを生かし、自分を再認識して、自信をもって新しい一歩を踏み出していただきたいと思っています。

みなさんの歩く道は、平坦な道だけではないと思います。険しい坂道があり、大きな壁が立ちはだかるかもしれません。大学で学んだことを基礎にして、常に新しい知識を吸収し、的確な判断力をもって、そのときの課題に対応できるように精進していただきたいと思っています。そして、目標に向かって一歩一歩、ときには半歩しか進めなくても自分自身のやり方で自信をもって前進してください。

みなさんの新しい人生の門出に、幸多いことをお祈りいたします。

福祉健康学部の卒業生諸君、御卒業おめでとうございませう。保証人の皆様も安堵されたことと心から御慶びを申し上げます。

諸君は大学生活の4年間、社会人になるために勉学に励み、クラブ活動にまたボランティア活動に精進してこれだけのものをつかんだことでしょう。その答えが就職にも活かされたことを確信します。このから旅立つ社会とは厳しいものであり、大学生のときのような甘えは決して許されないことを肝に銘じてください。

私たち福祉健康学部の学生は、社会福祉学科やこども学科では、子どもや、高齢者をはじめ、社会の弱者といわれる人々の幸せを追求する学問を学び、健康スポーツ科学科はスポーツや教育学を通して国民の健康維持増進に寄与する学問を学びました。また、平成24年度は大学院スポーツ健康科学研究科の第3期生3名に、修士の学位が授与されました。大学院生活は指導教員との二人三脚で研究に携わった2年間であったと思います。その成果によって教員採用のみが開かれた院生もあります。本当におめでとう御座います。今後は精進してこれら高度専門職教育・研究の成果を社会に役立つつよ頑張ることを心から期待しています。

皆さんが在学の最中に我が国は東日本震災という未曾有の大災害に遭遇し、現在も復興を目指して多大な困難に直面しています。昨年12月には政権の交代があり、政府は経済面ではデフレ脱却と持続的経済成長に努力しており、期待は持たれています。しかし現状は相変わらずの不況の最中であることには間違いありません。また、近隣諸国との軋みは依然として存在し、日本の状況は樂觀を許さないものであると言えます。しかし諸君のこれから長い人生において日本経済は必ず浮かび上がり、また沈むこともあるでしょう。今こそ人間の絆が大切にされる時代はないと確信しております。このような時代であるからこそ、これから実社会に旅立たれる諸君に望まれることは、希望と忍耐をもって自分与えられた仕事に邁進して頂きたいということだと思います。どうか安易に仕事を辞めないうでください。再び仕事を求めるのは至難の技であることを忘れないでください。最後に皆さんの幸運を祈っています。

平成21年4月に看護学部3期生として入学し、本日晴れの門出を迎えた学生の皆さん、ご卒業本当におめでとうございませう。同時に、これまで学生を支え続けてくださった保証人の皆様、感謝の気持ちで一杯でございます。さて、今日の日を待ち望んでいたことでしょうか。

福山市に初の4年制大学の看護学部が開設されたのに伴い、地域のご協力のもと4年間の看護学教育を終えられました。短かったようで長かった4年間でしたが、これからは社会の厳しさの中で自分自身を変えていき、プロフェッショナルとして全力投球で頑張りたい、皆様が大きく成長したと感じたのは、学外臨床実習後でした。幾多の試練で、凛とした顔となり、毅然とした態度で見事にプロとしての方向に成長したと感じました。私達教員は4年間、学生の皆様と苦楽を共にしてきましたが、大きく成長した姿を見て、喜びも一入であります。希望する就職先も決まり、看護学士号を取得した看護専門職者として、厳しい現状を認識し、こつこつと努力を積み重ねて将来は看護界を率いるリーダーになってほしいと考えています。それには、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力が必要です。失敗しても粘り強く取り組み、疑問を持ち考え抜くこと、多様な人々と共に目標に向かって協力する力をつけるよう、努力して下さることを願っています。

福山平成大学看護学部で学んだ学生の皆様は、一生の仲間であり、宝です。困った時は相談し、お互いに助け合ってください。看護職は組織にとつて社会的財産であり、貴重な存在であると言われるように何事にもあきらめないで頑張ってください。

卒業生の皆様の前途は大部分の方が看護師として臨床に就職します。教員になる方もいるでしょうし、助産師、保健師として活躍される方もいることでしょう。国民の健康を護る信頼される看護専門職者として、堂々と胸を張って進んでください。

更に、大学院看護学研究科並びに助産学専攻科の修了生、ご卒業おめでとうございませう。看護専門職者のリーダーとして力強くご活躍されんことをお祈りいたします。

信念をもって 一歩一歩前進



経営学部長
坪井 始

御卒業おめでとう -社会との強い絆を求めて-



福祉健康学部長
大成 浄志

厳しさの中で 自分自身を変えていく



看護学部長
橋本 和子

平成24年度 卒業生数

学 部	学 科	卒業生数
経 営 学 部	経 営 学 科	44名
福 祉 健 康 学 部	福 祉 学 科	20名
	こ ど も 学 科	22名
	健 康 ス ポ ー ツ 科 学 科	84名
看 護 学 部	看 護 学 科	59名
計		229名

研 究 科	専 攻	卒業生数
経 営 学 研 究 科	経 営 情 報 学 専 攻	1名
ス ポ ー ツ 健 康 科 学 研 究 科	ス ポ ー ツ 健 康 科 学 専 攻	3名
看 護 学 研 究 科	看 護 学 専 攻	2名
計		6名

専 攻 科	卒業生数
助 産 学 専 攻 科	5名

合 計	240名
-----	------

平成24年 学生表彰者一覧

このたび、「学生表彰」として学長賞ならびに奨励賞が第16回学位授与式において次の学生に、田口学長から表彰状と副賞が手渡されました。

学長賞は「学業部門」「スポーツ部門」「文化部門」「社会活動部門」のいずれかにおいて、優れた成績または活動をした学生に授与されるもので、今年度は、5名が表彰されました。学長賞に次ぐ成績等を修めた学生に授与される奨励賞として6名が表彰されました。

学 長 賞

経営学科

古本 彩

福祉学科

石ヶ休 祐美

こども学科

白石 麻奈

健康スポーツ科学科

平井 里菜

看護学科

胡子 沙也加

奨 励 賞

経営学科

相方 美佳

福祉学科

三吉 福乃

こども学科

河本 由佳

健康スポーツ科学科

森本 亮

健康スポーツ科学科

山住 雄介

看護学科

岡田 英里子

御幸五訓

一、真理を求め、道理の実践を志向する。
二、豊かな品性と魅力ある個性を伸ばす。
三、不屈の魂を養い、紐帯性を培う。
四、生命を尊重し、自然を畏敬する心情を育む。
五、誠実と倫を胸に刻み、夢の実現に挑む。

編 集 福山平成大学広報委員会(学報作成部会)

発 行 福山平成大学

発行日 2013年3月22日

福山平成大学

〒720-0001 広島県福山市御幸町上岩成正戸117-1

TEL 084-972-5001(代表) FAX 084-972-7771 <http://www.heisei-u.ac.jp/>